

仮想空間を活用した新たな働き方「メタワーク」の実証実験を開始しました

トヨタテクニカルディベロップメント株式会社（本社：愛知県豊田市、代表取締役社長執行役員：香川 佳之／以下、当社）は、国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学 未来社会創造機構（未来社会創造機構長：佐宗 章弘／以下、名古屋大学）と愛知県新城市（市長：下江 洋行）との「メタワーク環境構築に関する実現性検証施策」の合意書に基づき、8 月 25 日から新城市にて、仮想空間を活用した新たな働き方「メタワーク」の実証実験を開始しました。

この実証実験では、VR ゴーグルを装着し、遠隔地に設置されたロボットアームを操作することで、“メタワーク（仮想空間での労働）”という新しい働き方の社会実装を目指します。

参加者は、初めて体験する仮想空間での作業体験に驚きつつも、次第に操作に慣れ、楽しそうに取り組む様子が見受けられました。（写真 1）初日には、新城市の下江市長にもご参加いただきました。（写真 2）

遠隔操作の汎用性を検証するため、名古屋大学東山キャンパス（写真 3）およびトラスコ中山物流センター「プラネット愛知」（写真 4）に異なる種類のロボットアームを設置し、新城市から遠隔作業を行う環境を構築しています。

今後は、社会実装に向けた可能性と課題について、ワーカー目線と企業目線での両面から検証していきます。実証実験は 9 月 7 日まで実施予定です。

※当社は、自治体と連携し、作業スペースや通信環境の整備を担っています。実証実験の対象者には、取り組みの目的や趣旨を十分にご理解いただいた上で、円滑な実施を図っています。今後は、地域コミュニティにおけるメタワークの拠点展開に向けた枠組みの構築を進めてまいります。そのツールとして当社が提供する「バーチャル公民館®」を活用し、IT 技術を通じて地域住民が相互に「まなぶ」「つどう」「むすぶ」ことができる仕組みを、自治体と連携して探索していきます。



写真 1 : VR 操作を体験する参加者



写真 2 : 下江市長が実験に参加



写真 3 : 名古屋大学のロボットアーム

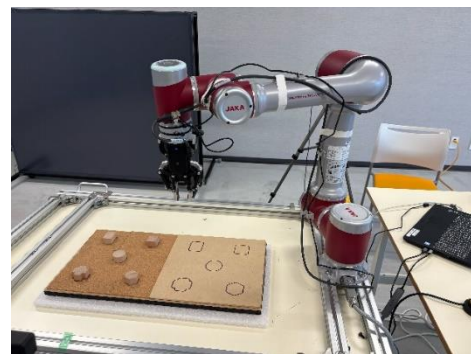


写真 4 : プラネット愛知のロボットアーム

本実証は、2023 年に内閣府の取り組みである「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第3期／バーチャルエコノミー拡大に向けた基盤技術・ルールの整備／地域活性化のためのグローバルインターバース基盤の研究開発」において、名古屋大学と国立研究開発法人産業技術総合研究所が共同提案し、採択された研究の一環として実施されています。当社は、名古屋大学からの再委託を受け、本取り組みの一部を担っています。

以 上

【トヨタテクニカルディベロップメント株式会社 会社概要】

設立： 2006 年 4 月

所在地： 愛知県豊田市花本町井前 1 番地 9

代表者： 代表取締役社長執行役員 香川 佳之

事業内容： **IP（知的財産）事業**

調査・技術動向解析、外国出願・権利化（特許・意匠・商標）、翻訳・通訳

計測シミュレーション事業

計測機器・装置の開発／製作、装置・設備の企画／計画立案、

モデルベース開発ソリューションの提案／提供、計測機器の校正／検査／修理、

次世代事業の開発支援

出資比率： トヨタ自動車株式会社 100%出資

URL： <https://www.toyota-td.jp/>

